

【2016年1月27日公開】



～丸わかり！ ロンドン発★欧州経済事情～

「松崎美子」が注目テーマを一刀両断！

『英ポンド安継続！ 戻りも限定的か』



執筆者： 松崎 美子 氏
(ロンドン在住/元為替ディーラー)



先週立て続けに2名の英中銀金融政策理事会（以下、MPC）の理事達が、これからの金融政策について講演をした。特にカーニー総裁の講演には、市場関係者の関心が集中したが、それには理由がある。

●昨年7月のカーニー総裁講演

2015年7月16日、イギリス北西部：リンカーンで行った講演で、同総裁は、「経済そのものに活気があふれてきて、それがインフレ圧力を徐々に高めるため、英国は政策金利を上げる必要性にかられる。その決断をする時期は、年末頃に、より明瞭になるだろうと私は考えている。」と語った。この講演を聞いた英国の報道各社は、早ければ年末から年初にかけて、利上げに動く可能性が出てきたと報道したのである。

その日のBBC ニュースは、「Carney indicates interest rates may rise at 'turn of year' カーニー総裁は政策金利は年明けにも上がると示唆」と報道。「とうとう来るのか…」と市場関係者が覚悟した瞬間であった。

参考：2015年7月16日 カーニー総裁講演全文
<http://www.bankofengland.co.uk/publications/Pages/speeches/2015/832.aspx>

●今年初めてのカーニー総裁講演

1月19日、ロンドンにある Queen Mary 大学での講演は、昨年7月リンカーンで語った「年末から年初にかけて」の時期とぴったり重なったこともあり、マーケットの関心の高さは群を抜いた。そこで同総裁は、「Now is not the time to raise rates 今は利上げをする時期では、ない。」と語り、昨年以来ずっと盛り上がったままの利上げ期待が一挙に崩れさり、英ポンドは急落。



カーニー総裁の金融政策の方向性に関する発言は、一貫性がないことで有名であり、「梯子外し発言」にはかなり慣れてきているが、2010年の安値である 1.4220 台が下抜けしたことも手伝い、「英ポンド/米ドル」はあっさり 1.41 台へ急落。

● ブリハ理事、利下げの可能性に言及

その前日には、昨年9月にMPC入りしたブリハ理事の講演があった。そこで同理事が語った内容は衝撃的であり、利下げの可能性にまでも踏み込んだ。

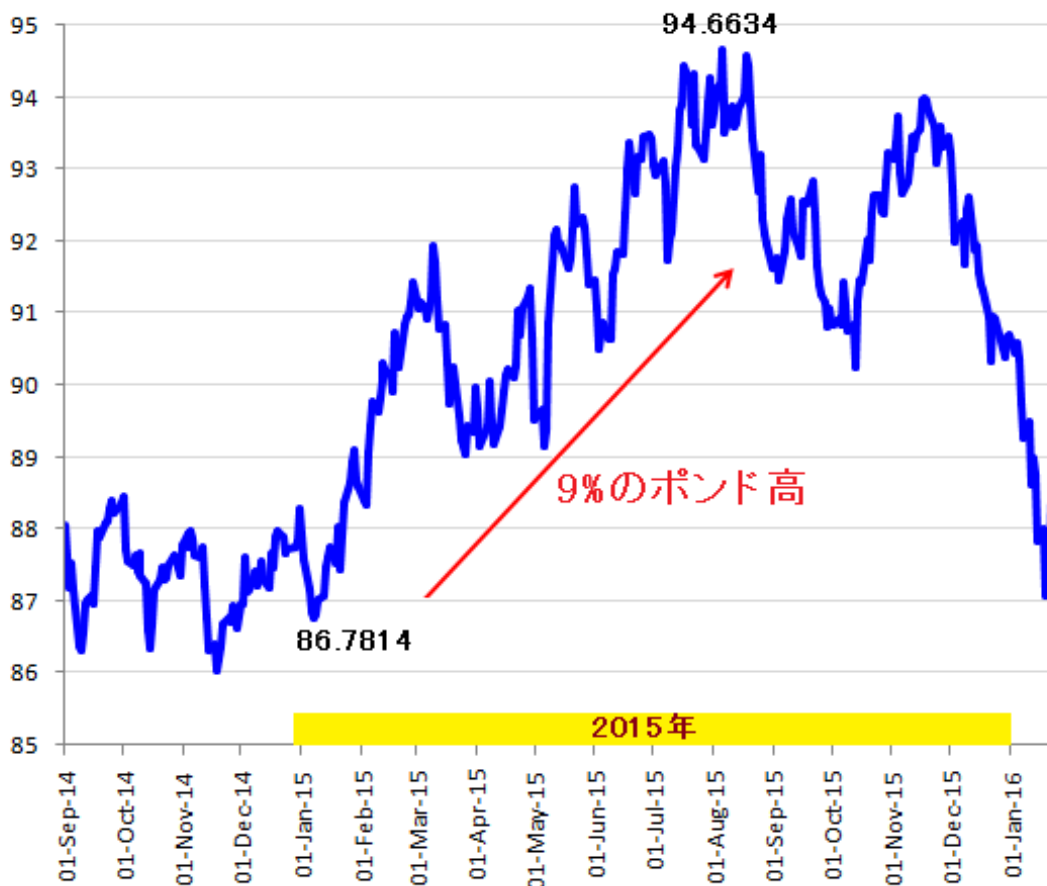
- ・政策金利を上げることは、慎重にのぞみたいと考えている
- ・英国の経済成長見通しを見る限り、まだ利上げは正当化できない
- ・もし英国経済の減速が著しい場合には、**政策金利のカットもあり得るだろう**

同じ MPC 理事の一人であるホールデン・英中銀首席エコノミストも昨年2度に渡り、「政策金利は上げ、下げ、どちらの可能性もある」と語りマーケットを驚かせたが、今回のブリハ理事の講演を聞く限り、MPC9名の理事のうち少なくとも2名は利下げも手段のひとつと考えているようだ。

●原油価格の下落と英ポンドへの影響

私のブログ読者からの質問で最近多くなってきたのが、「原油価格が 30 ドルを割った。北海油田を持つ英国は原油輸出国であるため、英ポンド安はむしろ望ましいのか？」というものである。これにはかなり誤解があり、**英国は 2013 年から原油の「輸入国」である**。そのため、通貨安は輸入物価を上げ、インフレを引き上げる力を持つ。それなら、これだけの通貨安でも、どうして英国のインフレ率は全く上がらないのか？その答えはカーニー総裁が用意してくれた。

同総裁は 19 日の講演で、「**通貨変動の 3 分の 2 (約 66%) くらいがインフレ率に影響を与えるが、それが具体的に数字に現れる時期は約 1 年後くらいとなる**」と語った。つまり、2015 年に起きた英ポンド高の影響が、2016 年の現在でも輸入インフレの低下を招いているという解説である。そうすると、今すぐにも原油価格が上昇しない限り、しばらくインフレ率の大きな戻しは期待できそうにない。



データ: 英中銀ホームページ ポンド実効レート

<http://www.bankofengland.co.uk/boeapps/iadb/index.asp?Travel=NixIRx&levels=2&XNotes=Y&A3951XNode3951.x=2&A3951XNode3951.y=3&Nodes=&SectionRequired=I&HideNums=-1&ExtraInfo=true#BM>

●まとめ

ボラティリティーの高かった1月相場も残すところ、あと1週間となった。その最後の1週間に、日米両金融当局の政策理事会が予定されている。先週のドラギ総裁による追加緩和期待で、ひとまず株安が止まったかのように見えるが、この傾向が今週中ずっと継続する保証はどこにもない。

英ポンド動向もしかりで、「原油高・株高になってはじめて、英ポンド下落がストップする可能性が出てくる」という他力本願の動きである点になんら変わりはない。そのため、年初から進行していた英ポンド安/米ドル高・円高・ユーロ高が180度転換するには、かなり意表を突く発表が必要となるろう。



「英ポンド/米ドル」の戻しレベルとして私が意識しているのが、右側・4時間足チャート上の黄色いラインが通る 1.4350/60 ドル台である。いかなる理由にせよ、米ドル安が進行し、このレベルが上抜けした場合は、左側・週足チャートに引いた水色の線が通る 1.4550/4600 ドルまでの戻しは覚悟している。ただし、ここまで戻る局面では売りたいと待っているところだ。EU 離脱の国民投票に対する不透明感が残るポンドは、EU 残留が決定的となるまでは、戻り売り続けるつもりである。

執筆者：松崎美子氏（ロンドン在住/元為替ディーラー）プロフィール】

東京でスイス系銀行 Dealing Room で見習いトレーダーとしてスタート。18 ヶ月後に渡英決定。1989 年よりロンドン・シティにあるバークレイズ銀行本店 Dealing Room に就職。1991 年に出産。1997 年シティにある米系投資銀行に転職。

その後、憧れの専業主婦をしたが時間をもてあまし気味。英系銀行の元同僚と飲みに行き、証拠金取引の話しを聞き、早速証拠金取引開始。

【本レポートの趣旨】

本レポートは松崎美子氏より発行されているレポートであり、情報提供のみを目的としております。

本レポート中のコメントは独自の見解に基づいたものであり、松崎美子氏、およびワイジェイFX株式会社共にレポート中の情報・意見等の公正性、正確性、妥当性、完全性等を明示的にも、黙示的にも一切保証するものではありません。

また、本レポート内のコンテンツ、データに関する著作権はワイジェイFX株式会社に帰属しております。

コンテンツ、データ等は私的利用の範囲内で使用し、無断転載、無断コピー等はおやめください。

さらに、かかる情報・意見等に依拠したことにより生じる一切の損害について、松崎美子氏、およびワイジェイFX株式会社は一切責任を負いません。

最終的な投資判断は、他の資料等も参考にしてご自身の判断でなさるようお願いいたします。